

図2 ATMとCM21のカセット連携

また、従来のATMの現金補充回収業務は、厳正化・事故防止の観点から二人作業や検印作業が必要であったが、図2に示すようにATMとの互換運用を実現する現金補充回収カセットにより、カセット連携を可能としている。現金授受作業がカセット入れ替えで済むために、現金に直接接触すること無くATMの現金回収や補充といった資金移動が可能となり、一人作業で現金授受の堅牢性を確保できる。さらにカセット内メモリに金額を保持しているため、ATMでの機械計数動作が不要になり、作業時間の短縮と紙幣ジャム発生の防止を図ることができる。

(2) 現金情報の一元管理

営業店内にあるオンライン端末やATM、さらには勘定系ホストとのデータ連携により、人手での伝票受け渡しやチェック作業が削減できるため、営業店業務の厳正化および効率化を実現できる。

CM21に搭載されている以下の機能は、その代表例である。

① 入出金取引連動機能

窓口端末とCM21での入出金取引においては、連動通番により、窓口端末での勘定処理金額とCM21での現金処理金額の相違をチェックできるため、現金授受の厳格性が高まり、人為的なミスによる違算事故が低減され事務効率が向上する。

② ATMデータ連携機能

CM21からATMへの現金授受においては、CM21からの出金金額とATMでの計数した金額の相違をチェックできるため、現金授受の厳格性

が高まり、かつ回金伝票等の起票作業等が削減され事務効率が向上する。

CM21og運用統制ソリューションの概要

本ソリューションは、営業店に設置されたCM21の操作状況を、遠隔からリアルタイムで映像をモニタリングすることで、現金出納業務の状況を適切に把握するとともに、業務運用のより厳正、的確、透明な遂行を実現する(図3)。

主な特徴

(1) 店内運用統制

営業店での現金出納業務を遠隔地からリアルタイムで映像によってモニタリングすることで、管理者が現場でその業務に立ち会うかのような厳正な効果を実現する。また、管理者のPCには、CM21の操作状況によって「緊急」「注意」「通常」の3種のアラート情報が随時表示される。支店長不在の場合にはPCを不在モードに設定しておくことで、緊急アラート情報を指定アドレスへメール送信でき、休日や夜間管理PCの電源がオフ状態の場合には監視センターから緊急アラート情報をメール送信することができ、操作状況の的確な把握ができる。操作者にとっても、データ、映像併用による詳細な操作記録が管理者のPCに保管されているため、万一嫌疑をかけられても潔白が証明できる透明性を確保できる。

さらに、顔認識を使った生体認証機能を追加できるため、CM21操作者の認証を行え、より厳正な運用管理が可能となる。

商品として、以下3レベルのモデルを準備している。

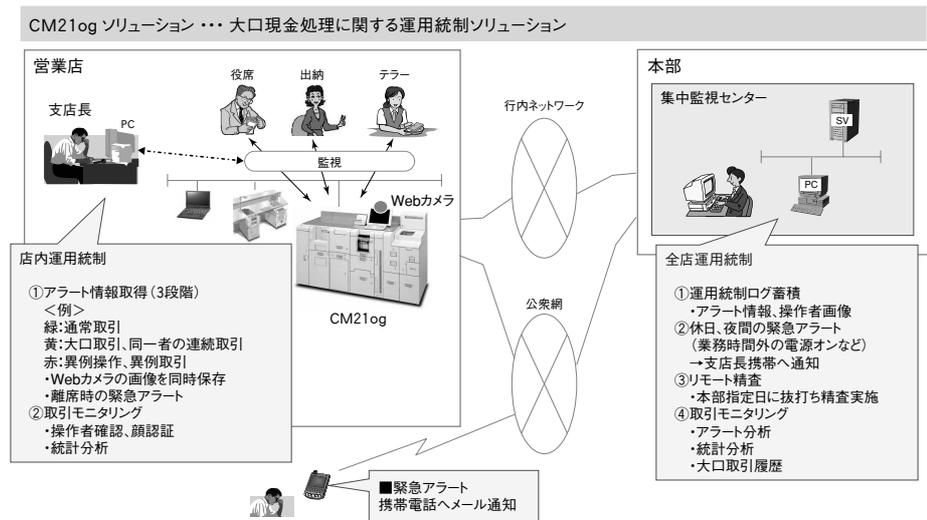


図3 CM21og運用統制ソリューション全体図

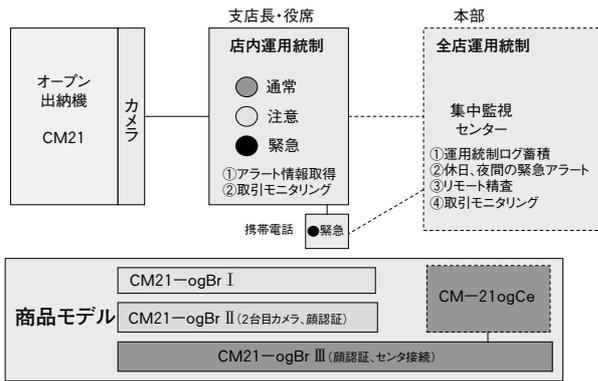


図4 CM21og運用統制ソリューション商品モデル

- ① CM21ogBr I : CM21に操作撮影カメラ、役席PCおよびパッケージソフトを搭載
 - ② CM21ogBr II : Br Iに加え、操作者認識カメラおよび操作者認識パッケージを搭載
 - ③ CM21ogBr III : Br IIに加え、本部監視センターとの接続用パッケージソフトを搭載
- 商品モデルを図4に示す。

(2) 全店運用統制

特定の営業店の店舗内だけでなく、その金融機関の本部から全営業店でのCM21取引をモニタリングする運用も可能で、さらに本部からの抜き打ちによるリアルタイムでのリモート検査機能も搭載されている。リモート検査機能は、本部端末に検査実施日を登録することにより、業務終了時に在高点検業務が自動に起動されるため、より牽制効果を発揮できる。また、CM21で保有している電子ジャーナルを元に、オペレータ別の取引件数や係別の取引比率を示す業務分散化傾向分析、全店での事務量分析も可能なため、事務指導や内部統制監査業務にも利用できる。

現金センタソリューションの概要

現金センターにおける現金集中処理業務に対するシステムには、高い信頼性、顧客データを管理するためデータ漏洩防止などの情報セキュリティ、更なる業務の効率化が要求されている。CXマルチシステムNEXT (現金精算システムCX-2250を複数台接続し、各々の精算結果を集計するシステム)は、上記要求に応えるソリューションを提供する。

主な特徴

(1) マルチシステムの構成

センター規模や障害対策レベルに合わせ、次の3種類のサーバ構成を準備している(図5)。

① ホットスタンバイ構成

フェールオーバー機能により、障害発生時のサーバ自動切替、切替時間の短縮化とデータ修正レスを実現する。

② コールドスタンバイ構成

障害発生時手動によるサーバ切替により、前日最終状態からの運用再開を可能とする。

③ シングル構成(サーバ1台構成)

障害発生時は代替機が必要となるが、最も安価なシステムである。

(2) 情報セキュリティ

顧客データ漏洩防止のための情報セキュリティ機能を強化している。

① オペレータおよび権限登録機能

オペレータごとの操作権限をセキュリティレベルに応じ4段階に設定できる機能を追加し、役席者権限のみにオペレータ情報の新規登録・変更・削除を許可する。下位

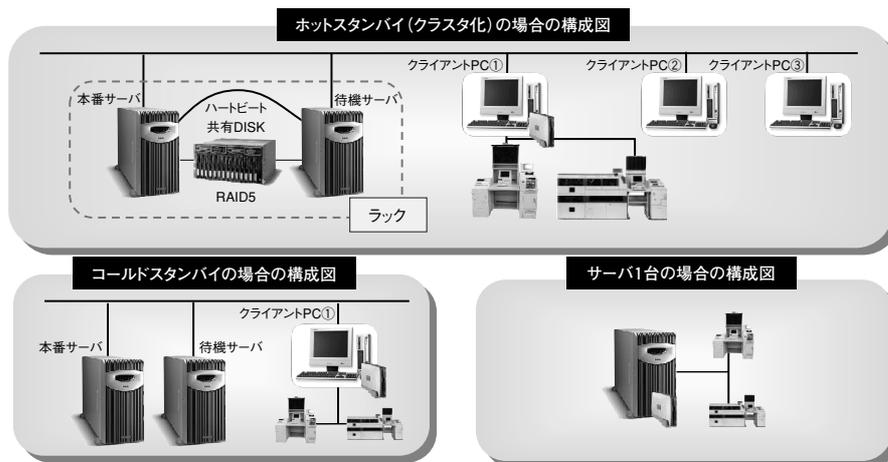


図5 マルチシステム構成図

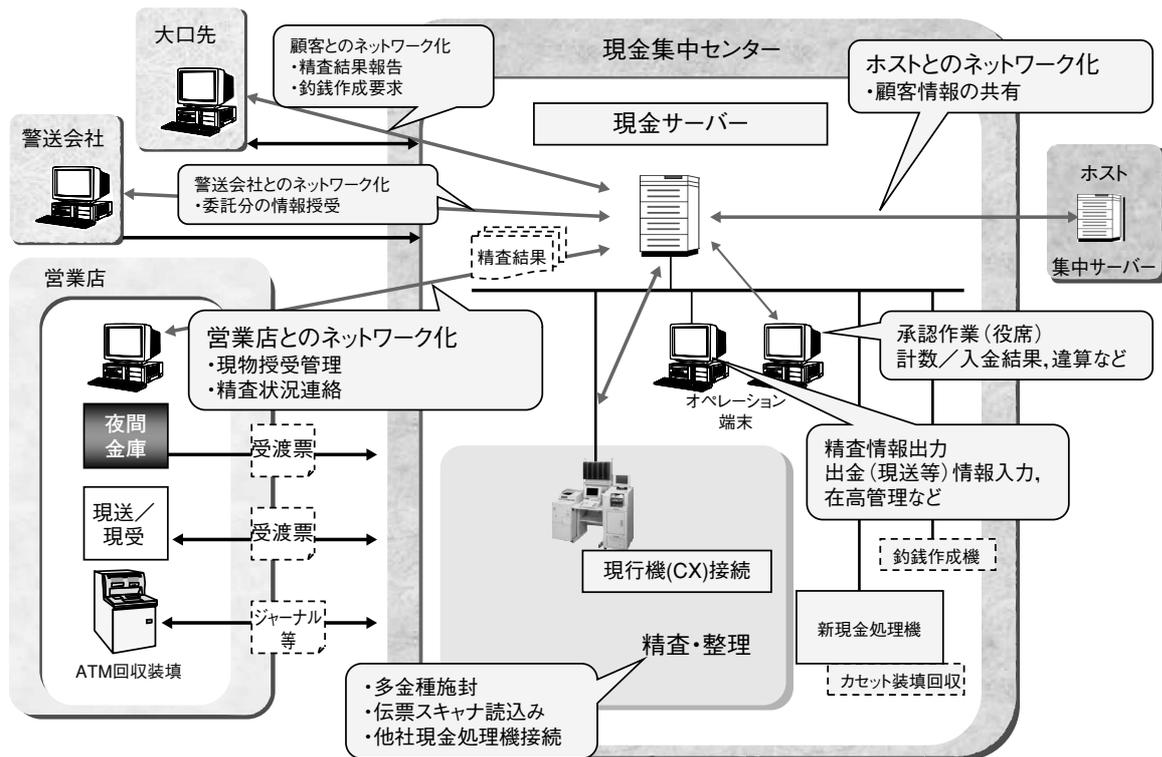


図6 現金統合管理システムの将来像

レベルの操作者へは顧客データへのアクセスを制限する。

② パスワードの強化

4桁から20桁の範囲で登録でき、アルファベットと数字の組み合わせを必須とし、かつ、有効期限の設定・同一パスワードの使用禁止設定もユーザーより選択可能とする。

③ バックアップデータの暗号化対応

バックアップデータを暗号化して外部メディアに記録することにより、顧客データの漏洩防止を図る。

(3) 業務効率化

現金センターにおけるシステムにおいても、業務の効率化が可能な機能の充実が望まれている。

① 取引履歴検索機能

現金センターでは、夜間金庫や流通店舗等から集められた現金の計数結果に基づき入金処理を行う業務がある。本業務の特性上、伝票金額と現金計数結果の不一致が発生する場合があります。入金取引結果についての問い合わせが多いため、取引履歴の検索機能により、確認作業の効率化を実現できる。

また、全操作履歴のログを取得し、処理日およびオペレータ番号をキーにした検索機能を搭載しているため、操作に起因する違算発生時の追跡調査や、監査業務に利用することができる。

② 未取引顧客一覧の出力機能

過去一定期間（任意に設定可能）に入金取引がない顧客を選び出し、一覧を出力する機能により、顧客情報管理作業の効率化を実現する。

③ 警送会社等外部委託データの自動入力機能

現金輸送に加え、現金計数処理まで含め警送会社に委託するケースが増加している。委託先での計数結果を、一括でデータ取り込みする機能により、入力作業の効率化を実現する。

今後の取り組み

1章で説明した営業店内の現金情報一元管理に対し、将来的には図6で示すように営業店・現金集中センターに加え顧客・警送会社をネットワーク接続し、データ連携を実現することにより、現物授受情報・現金処理情報・現金在高情報などの一元管理を実現し、金融機関トータルでの大幅な効率化・厳正化を実現するシステム提供を目指す。

● 筆者紹介

三好尊幸：Takayuki Miyoshi. システム機器カンパニー 営業本部 プロダクトSE部